

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	分収造林事業	会計	一般会計	事業No.	615	施策順No.	11-071	
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-2-2-29-1			
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	上村自治振興センター			
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	18	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市有林						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	出荷額等を高める活動をする。 森林総合研究所(旧緑資源機構)より受託し保育施業で健全な森林作りを行う。							
	対象をどう変えるか	森林総合研究所との契約面積 (ha)	560	560	560	560	560		
	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	対象をどう変えるか	施業面積 (ha)	31	7	69	8	34	55	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		国の保育間伐事業の予算化が少なく、事業を進めることができなかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	森林総合研究所(旧緑資源機構)との分収造林契約に基づいて市有林の保育施業を行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	除伐、保育間伐の施業委託。	①除伐面積 ②歩道新設	① 33.62 ha ② 1,000 m
23年度実施計画	除伐、保育間伐の施業委託。	①間伐面積	① 54.65 ha

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (そ)分収造林受託事業収入3,663千円 (そ)繰越金3,732千円 21→22 繰越明鏡費 6,749千円
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他		7,396	7,395	7,585	
一般財源					0	
	計 (A)		7,396	7,395	7,585	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)			0		
	トータルコスト A+B			7,395		

4 事業に対する市民や議会の意見

地球温暖化防止のための森林の公益性に着目した意見が多くなっている。また、国産材の利用と価値を高める施策がすすめられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存事業者の消費額(観光) 飯田下伊那 H15 141億円→H23 159億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	年度により事業費の大小はあるが、事業を進めることができた。		
	後期に向けた課題	森林総合研究所と協議により、計画的に事業促進を図る。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	森林【総合研究所と連携を密にして、事業促進を図った。		
	後期に向けた課題	森林総合研究所と協議により、計画的に事業促進を図る。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	契約面積地の計画的施策の実施。		
	後期に向けた課題	契約面積地の計画的施策の実施。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市有林の整備で森林総合研究所からの受託事業である。		
	後期に向けた課題	市が受益者であるので関与は適当		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	市有林の木材売り上げや、森林保全は国土保全や地球温暖化防止等に役立つため、市民全体に恩恵がある。		
	後期に向けた課題	今後も現状を維持していく		
全体を通じて	4年間の振り返り	国の施策により、事業費の大きな変動があった。		
	後期に向けた課題	森林総合研究所と協議により、計画的に事業促進を図る。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--